

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

朝日信用金庫（証券コード：—）

【据置】

長期発行体格付	A —
格付の見通し	安定的
短期発行体格付	J — 1

■格付事由

- (1) 東京都台東区に本店を置く資金量2.1兆円の信用金庫。都内はビジネスチャンスが豊富な一方で競争が激しいが、当金庫は主要な営業地区である台東区や江戸川区において一定の預貸金シェアを有する。格付は、事業基盤の厚み、相応の収益力や資本充実度、保全の効いた貸出資産の質などを反映している。収益力は外貨調達コストの減少や資金運用利回りの上昇などにより回復していくとJCRはみており、利益蓄積ペースの加速を通じて資本充実度を一段と高めることができるか注目していく。
- (2) 収益力は比較的良好な水準に改善しつつある。25/3期のコア業務純益（投信解約益除く）は、外貨調達コストの減少や国内金利の上昇に伴う市場運用収益の改善などにより、66億円と前期比4割弱の増益となった。ROA（コア業務純益ベース）についても約0.3%まで改善した。26/3期は預貸収支が減少するほか、システムコストが増加するものの、外貨調達コストの減少幅が大きく、コア業務純益はさらに増加する見通しである。当金庫は貸出ボリュームよりも収益性を一層重視した営業方針にシフトしており、利回りの高い貸出金の積み上げと外貨調達コストの動向に注目していく。
- (3) 貸出資産の質は一定の健全性が保たれている。25年9月末の金融再生法開示債権比率は4%弱とやや高く、その他要注意先債権が総与信に占める割合も3割超と高い。もっとも、保証等による保全が厚いことに加え、貸倒実績率に基づかない引当金を計上するなど、引当方法は保守的である。与信費用は、コロナ禍における特別引当金の取り崩しなどにより、23/3期以降戻入超過が続いている。総与信に占める不動産業向け貸出の構成比がこのところ上昇傾向にあることには留意が必要だが、厚い保全や引当により当面は与信費用が大きく膨らむ可能性は低いとJCRはみている。
- (4) 市場運用にかかるリスクは過大ではない。預証率は10%台半ばと低いが、外貨建債券の有価証券ポートフォリオに占める割合は3割程度と大きい。ただし、債券にかかる金利リスク、株式やREITにかかる価格変動リスクは資本対比でさほど大きくない。今後は償還に伴い外貨建債券残高が減少していく一方で、円建債券を中心に積み増していく方針であり、各リスク量や収支の動向に注目していく。
- (5) 資本充実度はおおむね格付に見合う。調整後連結コア資本比率は25年3月末で9%弱。前期比小幅に低下したものの、バーゼルⅢ最終化によってリスクアセットが増加したことが主因である。また、コロナ対応の特別引当金も勘案すると、リスクに対して相応のバッファーを確保している。今後はプロパー貸出の残高増加やバーゼルⅢ最終化の経過措置縮小などによりリスクアセットが増加する可能性は高いが、収益の回復に伴い利益蓄積のペースが加速することで、現状程度の資本水準の維持は可能とJCRはみている。

（担当）阪口 健吾・高澤 俊太郎

■格付対象

発行体：朝日信用金庫

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的
対象	格付	
短期発行体格付	J-1	

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2025年12月8日

2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：阪口 健吾

3. 評価の前提・等級基準：

評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。

4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：

本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年10月1日）、「銀行等」（2021年10月1日）として掲載している。

5. 格付関係者：

（発行体・債務者等） 朝日信用金庫

6. 本件信用格付の前提・意義・限界：

本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。

本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。

本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。

7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：

- ・格付関係者が提供した監査済財務諸表
- ・格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明

8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：

JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。

9. 格付関係者による関与：

本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。

10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遗漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものではありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただき行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等をすることは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、プローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル